

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年6月26日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370263

研究課題名(和文) 夏目漱石によるイギリス受容 小説理論の構築の一環として

研究課題名(英文) Natsume Soseki's Reception of Great Britain: Constructing a Theory of Literature

研究代表者

野網 摩利子 (NOAMI, Mariko)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：60586668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)： 夏目漱石が中世ヨーロッパの文学・文化・思想、ならびに、欧米近代思想を学んだことにより、近代の枠組みに囚われない思考を有し、現代から見ても新しい小説と文学理論とを作り得たことを論証した。平成26年度にはケンブリッジ大学にて、また、平成28年度にはオックスフォード大学にて、アカデミックビジターとして在籍し、漱石留学当時の文献に基づいて本研究を進めた。

英国およびヨーロッパでの招待講演、ならびに、国内外での国際シンポジウム主催のほか、単著『漱石の読みかた 『明暗』と漢籍』、単著論文「思想との交信 漱石文学のありか」【上】【下】、「漱石文学の生成 『木屑録』から『行人』へ」等、活発に成果を発信した。

研究成果の概要(英文)： I showed that by studying medieval European literature, culture, and thought, as well as modern European and American thought, Natsume Soseki was able to think in a way unconfined by modern frameworks and create novels as well as literary theories that are fresh even from today's perspective. When I was an academic visitor at University of Cambridge in the 2014 academic year and University of Oxford in the 2016 academic year, I engaged in this research based on texts from the time when Soseki studied abroad.

I actively shared my findings at invited lectures in Great Britain and Europe, by holding international symposiums in and outside Japan, as well as in my monograph How to Read Soseki: Light and Darkness, a novel, and Chinese Books and my articles, including 'Communication with Thought: The Location of Soseki Literature' and 'The Formation of Soseki Literature: From Bokusetsuroku to The Wayfarer'.

研究分野：日本近代文学

キーワード：夏目漱石 西洋思想 文学理論 小説 東洋文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 夏目漱石の思考は世界的広がりを持つ。漱石蔵書中の西洋の理論的・思想的書物への重点的調査により、漱石作品の読み替えを行う必要がある。

(2) 漱石の視野は近代に留まっておらず、東西の前近代に出現していた思考に対しても強い関心を寄せていることが読書歴から分かる。漱石は英文学研究者として留学中に、古代口承文芸に対する認識を深めたのではないかと考えられる。この未踏の研究領域を開拓しなければならない。

2. 研究の目的

(1) 漱石が大英帝国を超える文化・思想と文学との関係に目覚め、その思考法を、自身の文学理論ならびに文学の構想に役立てたことを明らかにする。漱石はイングランドよりもスコットランドの思想家・文学者を評価する。スコットランドは歴史的にヨーロッパ大陸と緊密なつながりを保持してきた。そのような観点を備えた著作を読むことで培われた歴史的視野が漱石文学に反映されていることを明らかにする。

(2) スコットランドでは、民族精神の高揚から古代民謡の発掘が行われ、文学者もそれを大いに取り入れた。漱石はその翻訳にまで取り組んだ。しかし、そのことを掘り下げる研究に乏しいのが現状である。本研究により突破口を開く。

3. 研究の方法

(1) 漱石留学当時 1900 年前後の英国における学術状況を調査し、漱石が摂取した学問から、それらによって参考にされた文献に至るまで、精密な検討を行う。その過去の大量の文献を日本において入手することは不可能であるため、英国の大学にて一定期間、研究を進める。

(2) 本研究はとりわけスコットランドの文化・文学・学問を重視する。スコットランドの学問自体が、スコットランドの文化伝統を継承する文学に理解を寄せて成立している。スコットランドの思想社会がリードする豊穡性を有していることについて認めていた漱石が、実地で感じ、会得したその文化的土壌を見極める。漱石の視野に入っていた古代・中世を、近代と同格に扱う視角を取り入れ、考察を進める。

4. 研究成果

(1) 漱石の文学、ならびに、文学理論の源泉調査成果

本研究は、漱石自身が参考にした書物に基づき、漱石の思考を探ることを大きな特色とする。とくに、漱石留学時に得た書物からの刺激と、幼少期より親しんできた東洋古典籍から体得されていた文学・文化空間とを照合し、いかに創造の源としたかという観点からの研究が独創的といえる。

この方法の採用には、足掛かりとすべき、専門書を大規模に有する図書館の常用が欠かせない。私は、世界トップクラスの大学であるケンブリッジ大学、ならびに、オックスフォード大学にアカデミックビジターとして迎えられ、それを果たすことができた。詳細はつぎのとおり。

University of Cambridge, Faculty of Asian and Middle Eastern Studies (2015年2~3月)

University of Oxford, Oriental Institute (2016年8月~2017年3月)

主にこの二大図書館の蔵書をふんだんに利用し、調査し終えた事柄は大きくつぎの二点である。

漱石留学当時 1900 年から 1903 年にかけての学問状況。

漱石による、古代・中世ヨーロッパの文学・文化・思想の摂取。

おおむね、の大学においては、を調べ得て、の大学においては、を調査した。

(2) 成果の公表

上記のケンブリッジ大学において、私は、漱石がデイビッド・ヒュームによる、人間の感覚や知性を考究した経験論を人間考察の基軸に据えて考えていたことを見出した。敷衍してそこから、若年期に傾倒した荻生徂徠による、人間感覚を掬いとる文字学の再評価に至ったと突き止めた。その成果を同大学で、「The Cultivation of Meiji-era Japanese: an Analysis of Natsume Soseki's *Meian*」という題で発表した(2015年2月)。中国と日本の古文辞が漱石長編小説に活かされていることを論じたものである。その成果はさらに翌2016年、単著『漱石の読みかた』『明暗』と漢籍』の公刊へと発展させた。

上記のオックスフォード大学における研究は、本研究が国際共同研究強化に採択され、さらなる支援を得たことにより、実現した。当該大学においては、漱石が英国留学時に学問の対象として前近代の思考について考察することにより、近代的思考に囚われない考え方を身に付け、ゆえに、現代から見ても新しい文学理論を温めながら、今日でも古びていない実作をつぎつぎと出し得たその道程を明かにした。

成果の最たるものとしては、私がオーガナイザーとなって結実した、オックスフォード大学での国際シンポジウム「Literary 'DNA': World Literature and Modern Japanese Literature」(2016年12月)がある。企画立案から総合司会・個人発表まで行った。個人発表題は「Making a Promise: The Impact of Old English Ballads and Romances on Soseki」である。同大学 Oriental Institute でも反響を呼び、*Japanese Studies at Oxford* (2017年9月)にその概要の掲載を要請された。

なお、本国際シンポジウムの第2回も私がオーガナイザーで、「文学の「DNA」 世界文

学と日本近代文学 The 'DNA' of Literature: World Literature and Modern Japanese Literature」の総題で、2017年6月、国文学研究資料館にて開催した。

さらに、本研究は、漱石自身が触れ得た前近代の文学・文化・思想のみならず、漱石の読み込んでいた西洋近代文学が具えていた前近代への視野が漱石に影響を与えたという論点も打ち立てた。その論点から行った発表に、「Histories, Ballads and Novels from the Perspective of Soseki's Association with R.L. Stevenson」(2016年11月)がある。ブルガリアのソフィア大学より招待を受けたものである。

また、英国スコットランドのエディンバラ大学から招待講演の依頼を受け、上記2つの論点を総合させた。すなわち、漱石自身の古代英文学研究、ならびに、スコットランド近代作家の古代研究との相関性を探ったのである。「Translation of Poems: Sir Walter Scott and Natsume Soseki」(2017年3月)という講演であった。これは長時間にわたる講演であったが、その一部を「ウォルター・スコットの明治と漱石」という論文で公表する。共著『倫敦塔論集』に収められることになっている。

(3) 重点的成果

本研究では、なかでも、古代スコットランド文学・文化にまで遡って漱石の思考を探ることに重点を置いた。明らかにし得た事柄について2点にまとめるならば、つぎのとおりである。

漱石がスコットランド滞在地をピトロクリに決めた理由の解明。従来言われていたような偶然の行きがかりとは言えない。英文学者漱石が関心を抱いた歴史と密接に関わる地域だったという、踏み込んだ理由があったのだ。

漱石が手掛けた翻訳の選択理由の解明。同じく、スコットランドへの歴史的関心、ならびに、地政学的な漱石の関心のありかを明確にした。確かな意図をもって選んだ詩を翻訳したのである。

本研究は、漱石が英文学者として本格的な研究を進めるなか現地の古典学者と肩を並べる理想のもとに積み上げた、前近代にまで遡る知識と思考法とが、東洋の前近代を見つめ直す契機となったことを証明した。漱石の真の全体像に迫る目的をよく果たし、この点の成果はつぎの2本の論文に顕著に上がっている。「漱石文学の生成 『木屑録』から『行人』へ」(『漱石の漢文脈』2018年)、「古譚と『草枕』」(『日本近代文学』第98集、2018年5月)。

このように、本研究は夏目漱石がつぎの2点を満たす思想家とも言いえる文学者であることを明らかにした。

19~20世紀の学知を完全に把握のうえで、その思考法に囚われていない。

英文学が築く歴史研究を体得したうえで、より世界的に普遍性のある、文学の学の構築によって、一英文学研究を凌駕した。

この点に関しては、『書物學』に連載した論文によって公表を果たした。「思想との交信 漱石文学のありか」【上】【下】、2018年。

(4) 本研究の発展の方向性とその公刊

オックスフォード大学、ならびに、国文学研究資料館において2回にわたって主宰した国際シンポジウム「文学の『DNA』 世界文学と日本近代文学」は、当初から共著『文学の『DNA』 世界文学と日本近代文学』の出版を企図し、シカゴ大学、ロンドン大学 SOAS、オックスフォード大学、ソフィア大学、東京大学、国文学研究資料館の、私自身も含む学者7名により、公刊を前提とした発表を行ったものである。

漱石の世界的文学理論および文学を、世界規模で捉えなおすこの試みは、その理論および研究方法としても、他の作家に応用可能であり、公刊の意義は大きい。現在、その応用可能性を拡げるために、遺伝学を使用しての科学性の担保を狙い、当該文学理論の精度を上げる最終調整をしている。2018年中の出版予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

野網摩利子、「思想との交信—漱石文学のありか【下】」、『書物學』、勉誠出版、13巻、2018年、印刷中

野網摩利子、「古譚と『草枕』」、『日本近代文学』、日本近代文学会、査読有、98巻、2018年、87—99頁

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nihonki-ndaibungaku/list/-char/ja>

野網摩利子、「思想との交信 漱石文学のありか【上】」、『書物學』、勉誠出版、12巻、2018年、37—43頁

NOAMI, Mariko, “Symposium on ‘Literary ‘DNA’: World Literature and Modern Japanese Literature, *Japanese Studies at Oxford*, 2017, p.5.

野網摩利子、「呼びかけられる声の時間」、『アジア遊学』、勉誠出版、195巻、2016年、176—181頁

野網摩利子、「日中の古文辞学と漱石」、『国文研ニュース』、国文学研究資料館、39巻、2015年、4—5頁

野網摩利子、「『明暗』—Picturesque Light

and Shade』、『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』、国文学研究資料館、41 卷、2015 年、33—61 頁

野網摩利子、「漢語「行人」—詩から小説へ」、『HUMAN』、平凡社、7 卷、2014 年、91—95 頁

〔学会発表〕(計 7 件)

野網摩利子、「リリカル・バラッドと漱石小説の世界 Lyrical Ballads and The World of Soseki's Novels」、The 'DNA' of Literature: World Literature and Modern Japanese Literature (国際学会) 於国文学研究資料館、2017 年

NOAMI, Mariko, Translation of Poems: Sir Walter Scott and Natsume Soseki (詩の翻訳 ウォルター・スコットと夏目漱石)、Japanese Studies at the University of Edinburgh (国際学会) The University of Edinburgh (英国・エディンバラ) 2017 年

NOAMI, Mariko, Making a Promise: The Impact of Old English Ballads and Romances on Soseki (約束する者たち 漱石に対する古謡の力)、Literary 'DNA': World Literature and Modern Japanese Literature (国際学会) University of Oxford、(英国・オックスフォード) 2016 年

NOAMI, Mariko, Histories, Ballads and Novels from the Perspective of Soseki's Association with R.L.Stevenson (歴史・民族・小説 漱石と R.L.スティーブンソンの関係から)、Sofia Literary Theory Seminar (国際学会) The University of Sofia (ブルガリア・ソフィア) 2016 年

野網摩利子、「古譚と『草枕』」、大東文化大学特別レクチャー、於大東文化大学、2016 年

野網摩利子、「能と漱石」、学際日本フォーラム、於東京大学、2015 年

NOAMI, Mariko, The Cultivation of Meiji-era Japanese: an Analysis of Natsume Soseki's *Meian* (明治人の教養 夏目漱石『明暗』から)、Japanese Studies (国際学会) University of Cambridge (英国・ケンブリッジ) 2015 年

〔図書〕(計 5 件)

野網摩利子、「ウォルター・スコットの明治と漱石」、『倫敦塔論集』、鳥井正晴編共著、和泉書院、2018 年、印刷中

野網摩利子、「漱石文学の生成 『木屑録』

から『行人』へ』、『漢文脈の漱石』、山口孝編共著、翰林書房、2018 年、86 104 頁、総 207 頁

野網摩利子他共編、『漱石辞典』、翰林書房、2017 年、総 829 頁

野網摩利子、阿部卓也、谷島貫太、生貝直人共著「デジタルアーカイブ時代の大学における「読書」の可能性』、『ハイブリッド・リーディング 新しい読書と文字学』、日本記号学会編、新曜社、2016 年、166-180 頁、総 278 頁

野網摩利子、『漱石の読みかた 『明暗』と漢籍』、平凡社、2016 年、総 82 頁

〔産業財産権〕
該当しない。

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野網摩利子 (NOAMI, Mariko)
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：6 0 5 8 6 6 6 8

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

谷川恵一 (TANIKAWA, Keiichi)
国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：1 0 1 7 1 8 3 6

小森陽一 (KOMORI, Yoichi)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：80153683

(4)研究協力者

リンダ・フローレス (FLORES, Linda)
オックスフォード大学 (英国)・Oriental
Institute・准教授

スティーブン・ドッド(DODD, Stephen)
ロンドン大学 SOAS (英国)・Department of
East Asian Languages and Culture・教授

ダリン・テネフ (TENEV, Darin)
ソフィア大学(ブルガリア)・Literary Theory
Seminar・准教授

マイケル・ボーダッシュ (BOURDAGHS,
Michael)
シカゴ大学(米国)・East Asian Languages and
Civilizations・教授